

学校図書館から見た道内の 読書環境に関わって

～望ましい読書環境づくりに向けた
学校図書館と公共図書館の在り
方について～

全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー
北海道学校図書館協会事務局次長
北海道教育大学非常勤講師

大久保 雅人

1 はじめに

(1) これからの学校および学校図書館を考える にあたって

- 北海道の創生を支える源は『人』
- 人口減少や少子高齢化
- グローバル化や高度情報化
- 人材の育成を担う教育の役割
- 新学習指導要領

『教育課程』『主体的・対話的で深い学び』『カリキュラム・マネジメントの確立』

- 学校・家庭・地域・行政の緊密な連携

人口減少・少子化に関わって

- 市町村の統廃合⇒学校の統廃合

212⇒179

- 人口減少⇒税収の減少の影響

- 2017～**第5次学校図書館図書整備等5か年計画**

図書整備費	約1,100億円
-------	----------

新聞配備費	約150億円
-------	--------

学校司書配置費	約1,100億円
---------	----------

新学習指導要領に関わって

2017年3月31日告示⇒新学習指導要領

『主体的・対話的で深い学び』

- 『方法や型』ではなく『視点』
 - 『深い学び』『多様な学び』『具体的な学び』
 - 学習で十分活用できる学校図書館の整備充実が必要
- ⇒**学校図書館メディア（図書等の資料＋ICT環境）**
人の配置（司書教諭＋学校司書）

チーム学校・連携に関して

文部科学省『チーム学校』の推進

- 『学力・体力の向上』『不登校』『いじめ』『特別支援』などに関わる対応すべき課題
- 専門的なスタッフを配置⇒**学校司書も**
- 様々な機関や人々との協力・連携を図る
コミュニティづくりの推進
⇒ **『読書コミュニティ』**

(2) 平成28年度『学校図書館の現状 に関する調査』結果より 2016. 10

①学校における人的整備の状況(公立学校)

司書教諭の発令状況(11学級以下)

小学校	全国	28.7%⇒北海道	6.4%
中学校	全国	31.2%⇒北海道	7.6%
高等学校	全国	36.2%⇒北海道	12.4%

※北海道の11学級以下の学校

小学校	577校 /1056校
中学校	409校 / 596校
高等学校	113校 / 233校

学校司書の配置状況

小学校	全国	59.3%⇒北海道	14.2%
中学校	全国	57.3%⇒北海道	14.9%
高等学校	全国	66.9%⇒北海道	<u>5.6%</u>

※実習助手・事務職員等が学校司書の
役割を担っている実態

②学校図書館における図書整備の状況

(公立学校)

学校図書館図書標準の100%達成率

小学校	全国	66.4%	北海道	35.2%
中学校	全国	55.3%	北海道	38.0%

※100%達成市町村(北海道) ※達成0%市町村(北海道)

小学校 **22**/179

中学校 **28**/179

小学校 **73**/179

中学校 **109**/179

(3)これからの学校図書館の整備 充実について(報告)より

①学校図書館の現状と課題

学校図書館の運営に係る人材の面

2014年『**学校図書館法の一部改正**』

「学校司書を置くよう努めなければならない」

課 題

※資格・養成の在り方についての検討

※専門的知識・技能等の水準の確保に

向けた取組などが課題

「学校司書」法制化

《学校図書館法の一部改正》

(2014年6月27日公布・2015年4月1日施行)

第六条「学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館利用の一層の促進に資するため」

○学校司書(専ら学校図書館の職務に従事する職員)の配置

附帯決議

- ①水準が下がることのないような配置の促進
- ②学校司書が継続的・安定的に職務に従事できる勤務条件の整備
- ③政府による、職務の在り方・資質向上等のための必要な措置等の検討
- ④11学級以下の学校への司書教諭配置促進
- ⑤司書教諭と学校司書の職務の在り方検討

学校図書館資料の面

『学校図書館図書標準』の達成率増加
課題

※図書資料の適切な廃棄・更新

※新しいニーズに対応する図書館資料の
整備

⇒2016. 11 **学校図書館ガイドライン**
学校司書のモデルカリキュラム

②学校図書館ガイドライン

※学校図書館の機能

読書センター 学習センター 情報センター

※校長⇒**学校図書館長**(校長の責任、責務が明確に)
児童生徒や教職員が最大限利活用できるように開館に努める
学習指導要領を踏まえ、計画的・継続的に学校図書館の利活用を図る

※**指 針**

※**組織的に学校全体でその職務と責務を担う**

③学校司書のモデルカリキュラム

- 資格制度は設けられず、モデルを示す。
 - 専門的な知識・技能を大学で履修
 - 10科目20単位
 - 司書資格・教職課程・司書教諭資格の読み替え可能
- ⇒ **学校司書独自の専門的な知識・スキルが必要**

④学校図書館図書整備等5か年計画

■ 2017年度から2021年度までの5年間

■ 学校図書館図書整備 約1, 100億円

■ 新聞配備 約150億円

■ **学校司書配置** **約1, 100億円**

※小・中学校のおおむね1.5校に1名程度
の学校司書の配置が可能

2 学校図書館と公共図書館の連携 の在り方

(1) 北海道子どもの読書活動推進計画

〔第四次計画〕 平成30年～34年

《基本目標》

- ① 家庭・地域・学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進
- ② 子どもの読書活動を推進するための読書環境整備
 - ※ 公共図書館（支援）⇔学校（連携）
 - ※ 目標指標（小・中100%・高60%）

(2) まちに図書館を

～図書館を通じて人づくり・まちづくりを～

- 子どもへの読書活動への支援
- 地域における学習や情報の拠点としての役割
- 学校や福祉施設などへの支援

図書館は地域における子どもの読書活動を推進する上で重要な役割を果たしている

学校図書館への支援・連携（例）

■ 学校図書館担当者会議

行政や学校等、関係する職員が連携し、相談や情報交換 ～学校図書館の活性化等を話し合う

■ 小学校でのブックトーク

司書が学校を訪れ、授業に関する本や、おすすめの本を紹介

■ 学校図書館ちょっと劇的Before After

学校図書館のリニューアルのお手伝い

(2)これからの学校図書館と公共図書館 の連携の在り方について

- 2008文部科学省子どものサポーターズ会議報告
これからの学校図書館の活用の在り方等について

《人的体制》

- ※各学校に専門的な人材による体制の確立
- ※教育委員会における指導主事等の学校図書館
担当職員の体制強化

《物的体制》

- ※学校図書館図書標準の達成(図書資料の充実)
- ※学校図書館の施設設備の充実(情報化の推進)

2008～学校図書館支援センター

- 地域における図書資料の資源共有促進
- 教育センターと学校図書館との連携体制の構築
- 研修機会の充実
 - 学校図書館スタッフ職員の資質向上・校長等管理職の理解増進
- 読書ボランティア等の養成・訓練
(支援・研修会)

2016 学校図書館ガイドラインより

(2) 学校図書館の運営

公共図書館等と密接に**連携**を図り、**協力**するよう努める

(3) 学校図書館の利活用

公共図書館等と**相互貸借**を行うよう努める

(4) 学校図書館に携わる教職員等

学校司書の配置・**ボランティア**の協力

(5) 学校図書館における図書資料

同一の蔵書管理システムの導入・**ネットワーク化**

今後求められる取組（教育委員会）

- **学校図書館と公共図書館との連携・協力を支援**
 - ※公共図書館資料の学校図書館への貸出
 - ※公共図書館司書等による学校への訪問
 - ※学校におけるレファレンスサービス等への協力
- **公共図書館の資源・機能をいかに活用していくか**

蔵書の貸出（物流の提供）だけでなく、学校図書館活動や研修等への協力およびレファレンスサービスなど、地域の学校に対する支援・協力を率先的に行う。

3 望ましい読書環境づくりに向けて

(1) チーム(としての)学校

2015. 7文部科学省 **チームとしての学校の
在り方と今後の改善方策について** (中間まとめ)

※必要な教職員、専門的スタッフ等の配置

※専門性に基づくチーム体制の構築

※専門的スタッフの一員として『学校司書』

(2)「連携」の捉え方～「協力」「支援」から「協働(協同)」へ

■「生きる力」⇒「自立」「共生」

①共存⇒②共有⇒③共同⇒④協同⇒⑤協働

■「連携」のレベル

①協力⇒②支援⇒③協働(協同)

※事業および研修・研究などで計画段階から主体的に参加し、構成団体として責任をもって協力し、役割を受け持ち、資源を共有し、人的交流を図る

(3) ネットワークを「読書コミュニティへ」

- 秋田喜代美 著『本を通して絆をつむぐ 児童期の暮らしを創る読書環境』(2006北大路書房)

子どもの心と読書環境をつなぐ**結び目となるノットワーキング(Knot working)**⇒環境は物理的にあればよいのではなく、その環境と出会うための**文化的環境が必要**であり、物理的環境と子どもをつなぐ**社会的環境としての人**が必要

また、読書を特別な環境としてしつらえるのではなく、**子どもの日常生活に浸透し位置づく**ようにすることが必要

読書コミュニティとは

- 読書文化へ子どもたちの参加を誘い、**共に読書生活を楽しむ**というビジョンを共有する地域住民としての**自主性と責任を自覚**した人たちによる集団体系
- 読書という話題に関して**関心や問題を共有し**、その分野の知識や技能を**持続的に相互交流**して生み出し、**共有し実践を深めていく**学習者ネットワーク

(4) まとめに代えて

① 本のある場に居ること

場への参加と共有

② 本の読み聞かせをしてもらう経験があること

さまざまな本の世界を他者の読み声で聴く

③ 本を読み合い語り合う経験があること

共に読書を楽しむ仲間がいる

※学校図書館と公共図書館が、地域の「**読書コミュニティ**」の構成員として連携し、結び目（ノットワーカー）となって推進していくことが必要